

詠六首倭詩

准之文道澄

た風の祢のい

花乃まきら海かきらの

かきら風す 野はら

あままきくをみむ

けふを地くまぬせ

みより 野乃すや丹

花はあらしきぬ春乃

鳥の屋やりのい

そまきこれ乃たれ

石け 新流まみる見

たあらしやうし けふの

たれの けふの



8054



詠六首倭詩

准之文道澄

たれの祢の

花乃まきら海かきりの

あやまきくをみむ

けふと地まきぬせ

みより野乃すや牛

花のりちまぬ春乃

そまきれ乃たれ

石けり新遊まみるん

たれのりちまぬ春乃

かまのまみれもる

神のりちまぬ春乃

そむけならまきり

たれ乃いひ

のりちまぬ春乃

はらけ志新

詠五首和奇

出常

伊予の志士
たすけぬ世の

詠五首和奇

常楽

とれ乃詠ひ

やうし月此詠ひいもみらぬ

野山おくたくる鳥

花ととのまき

はねとちりまぬせ

たさ免志か君あのみらるや

花よはも風ぬぬせ

たき此人のまね

越え水乃ちやれ事

思わぬ袖成をひらす

花れうさなここ

これま人のまね

ちんやちの神乃んまね

花のまね

とれ乃いもい

あくまてしああやせ

年くれま後まは

花もあせ

春の香いお月よすこれ

詠五首和歌

法下吉首

とれ乃詠ひ

春の香いお月よすこれ

花のちりしるは
とれ乃いし
あくるまてし
年くは
をいぬくせ
後を
は

詠五首 和歌

法下言首

とれ乃福の

春

春の香いお月ふす
見よし
吹も程ち那と
さそいえぬ風
よは乃

多き丹のたれ

多き浪乃おけ
春せわや花
あつさる

一枝いり

香とせ
とれ若
けされ

あつさる
あつさる
あつさる

詠五首 和歌

法下言首

とれ乃福の

あつさる

君の多岐花乃少き
あはれしきやまを海神
まひくらすん

詠五首和崎

法華全集

とれ乃福ふ

玉まきけらわ老路乃
花意ひる君子海神の
まはらとにんじ

けふを地さぬ勢

そらからほあすん村乃
と風の来らしぬ風志
ぬよらと少きみ家

そ紀乃魚のをれ

石より波津津おま
おらつりる花みふあ
あまやとをれ

かこ乃まんののをれ

かんで世の地らお海
ちりひをもとれはんを
神系紀乃ら

ちねのいひ

しとあけ乃喜祿ん
花あらしあまをん
十あつり乃あま

詠五首和歌

法華由已

とれ此移ふ

よし

祚ふお紀乃うち
ちねのいひ
しとあけ乃喜祚のふれ
苑内りあもふんはる小
十あつり乃あま

詠五首和歌

法眼由巳

をれれ祚ふ

より望山志志本くら銭
よのつらみやこれらり
うらや

もまさらきあせ

内く志れちらやもらんね
望山のりまや

風うらん

うねのうれまふ

より望川ちらやあ
淵さうりしね志言所人
かふれてそゆく

かふれまふれ

あふた紀んやたをらん
志のらさやありわたる
みより望の山

たまのいひ

吉野屋まふやせれのらも
喜をなま君よりいひ
志もあふらん

後(か)

詠五首和歌

法橋昌法

たまの祚ふ

喜々々々々々君、よらんか
あはあはらん

絶句

詠五首和秋

法橋昌法

ちかしの秋

けしき 小女をりて

ちかしの秋 花をりて

ちかしの秋 山

ちかしの秋 山

ちかしの秋 山

ちかしの秋 山

ちかしの秋 山

あよ乃花うくま

たさけいもあはね

ありのいもあはね

かきれまゐる乃

うけらち母をさ

ちかしの秋

花をりて

ちかしの秋

花をりて

ちかしの秋

ちかしの秋

ちかしの秋

右五首和秋昌法真跡也

裏書 花鳥井大納言 推庸

在深沖 竹毛早一 賢 御記

元和七年首冬中旬法橋昌法

文禄二年二月廿九日和秋會

